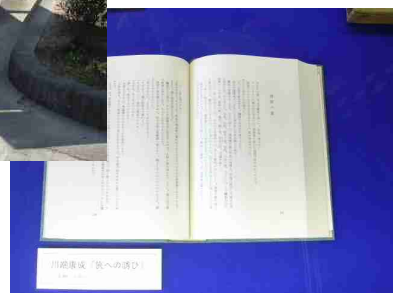


読書サークル活動研修会

読書サークル活動研修会は年1回の屋外研修として平成22年3月11日に蒲郡市と幡豆町において文学散策を中心に行われました。また、屋内研修として年2回9月と3月に豊橋市図書館で発行される読書サークルレポート『風』への寄稿や編集協力を行っています。読書サークルレポート『風』は豊橋市中央図書館・豊橋市配本センター・石巻・二川・南稜・北部・青陵・南部・牟呂地区市民館・こども未来館・豊橋市役所じょうほうひろば等で掲示頒布しています。



風

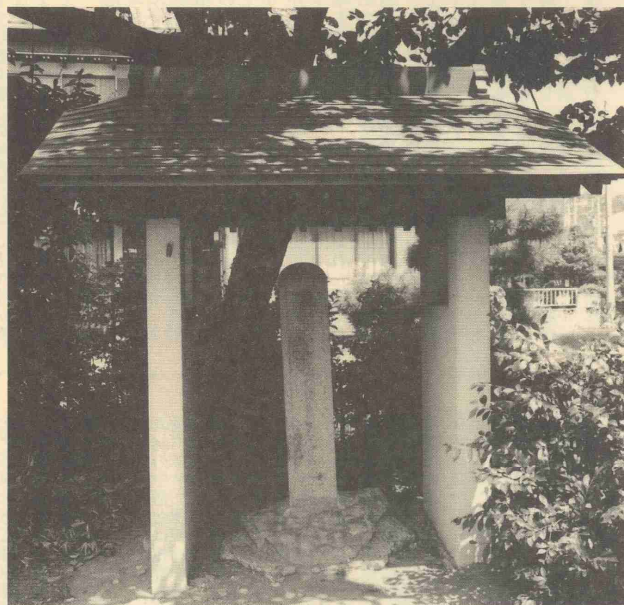
豊橋市図書館
豊橋読書サークル連絡会

豊橋市羽根井町48番地
TEL. 0532-31-3131
FAX. 0532-31-4254



(昭和初期探拓)

碑陰



東三河最古の芭蕉句碑

陽炎塚

(豊川市八幡町西明寺参道入り口)

「かげろふの我が肩に立つかみこ昏子哉」

この句は、松尾芭蕉が一六八九年(元禄二年)春に詠んだ句で「伊達衣」(相楽等窮編)に収録されている。

陽炎句碑は、一七四三年(寛保三年)十月十二日、芭蕉五十回忌追善法要として国府の俳人米林下才二が建てたものである。東三河地方二十四基の中で最も古い句碑である。一九七六年(昭和五十一年)十月三十日に豊川市指定史跡となっている。

句碑は、長年風雨に晒されて碑文を詠むことはきわめて困難であるが、「かげろふの我が肩に立昏子哉 はせを翁」と刻まれている。側面に「従是凡六丁西名所二見別」と、碑陰には三行にわたって設立経過(写真左拓本)が彫られている。碑自体は角柱御影石(高さ一米十糎、幅二十二糎)で素朴ではあるが、句碑としては味のある作品である。

句は、冬の紙子を着ている私(芭蕉)の肩にもうゆらゆらと陽炎が立っているよという意味で、長い旅の中ではあった安堵感が伝わってくる春の句である。

(写真と文 三河芭蕉会 豊田俊充)